

県内経済 〈8月〉

概況

県内経済は、全体として緩やかに回復している

機械金属の生産は低迷しているものの、電子部品は増勢が続いているほか、木材も製材品で大型工場の稼働により前年を大幅に上回っている。建設は、住宅着工が前年を下回ったが、公共工事は前年を上回った。個人消費は回復の動きが一服している。雇用情勢は弱含んでいる。

産業別の動向では、電子部品の生産額は、車載向けで横這い傾向にあるが、スマートフォン向けなどが増加傾向にあり、7か月連続で前年を上回った。機械金属の生産額は、輸送機械で一部メーカーの認証不正による低迷などにより、6か月連続で前年を下回った。木材の生産量は、普通合板（7月）が2か月連続で前年を下回ったものの、製材品は7か月連続で前年を大幅に上回っている。公共工事請負額は、3か月ぶりに前年を上回り、年度累計でも前年を上回っている。地元大手（12社）の建設受注額は、官公庁、民間工事とも大口受注があり、2

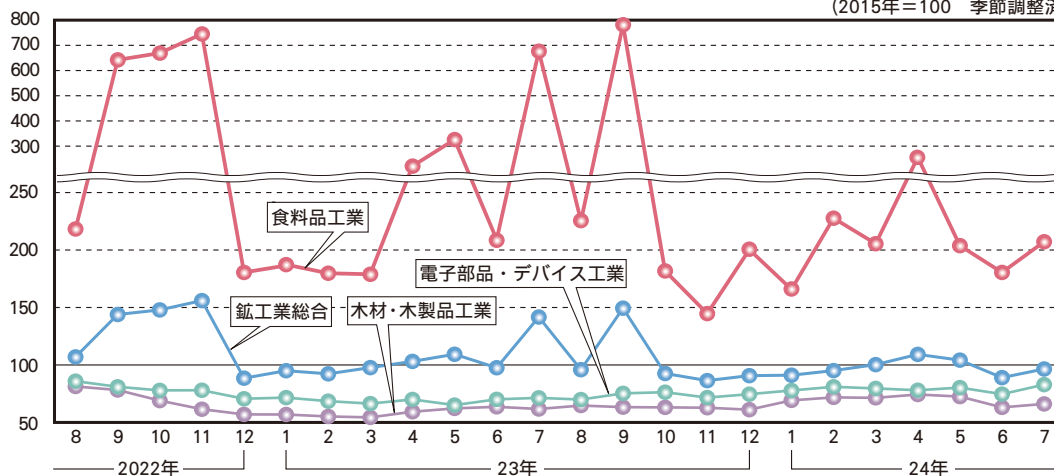
か月連続で前年を上回った。住宅着工は、3か月ぶりに前年を下回った。個人消費は小売店販売額（7月）が25か月ぶりに前年を下回ったほか、新車乗用車販売台数（8月）も2か月ぶりに前年を下回るなど、回復の動きが一服している。

有効求人倍率は前月比横這いの1.24倍となった。新規求人数は前年比6.2%減となり、2か月ぶりに前年を下回った。事業主都合離職者数は前年比105.4%増となり、5か月連続で前年を上回った。

企業倒産件数は3件、負債総額は2億4,500万円であった。

秋田県鉱工業生産指数の推移

(2015年=100 季節調整済)



資料：秋田県企画振興部調査統計課「秋田県鉱工業生産指数月報」

電子部品

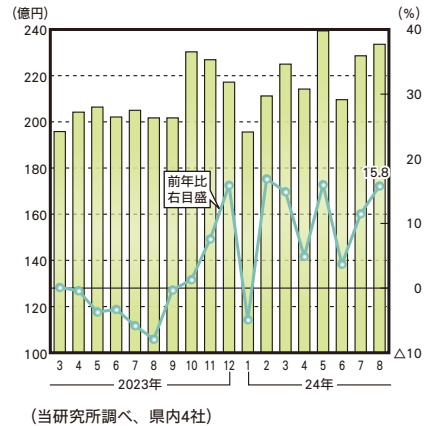
生産額、増勢続く

8月の生産額は前年比15.8%増となり、7か月連続で前年実績を上回った。

車載向けは電気自動車（EV）の販売が鈍化していることから横這い傾向にあるものの、低迷が続いていたスマートフォン向けが大手メーカーの新機種発売などもあり増加傾向にあることに加え、パソコンなどその他民生機器も需要が拡大していることから、総体では増勢が続いている。

その他品目別では、主力のセラミックコンデンサやコイルは好調を維持しており、半導体素子も堅調に推移している。産業向け液晶パネルは低迷から脱し、拡大傾向が続いている。

電子部品の生産額推移



機械金属

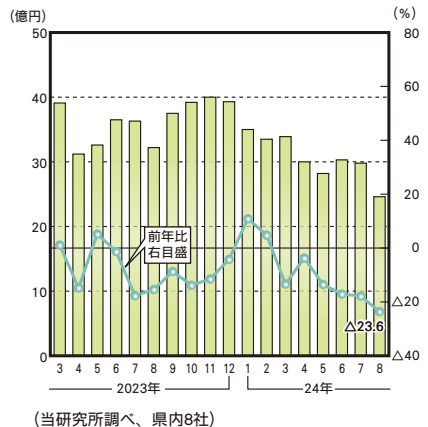
生産額、低迷続く

8月の生産額は前年比23.6%減となり、6か月連続で前年実績を下回った。

ウエイトの高い輸送機械は、国内生産が一部メーカーで認証不正問題が尾を引いていることなどから低迷しており、海外生産も中国市場での競争激化や欧州市場の販売低迷により落ち込み、総体では減少傾向が続いている。

その他民需関連では、産業機械は増勢を強めており、建機部品も増加傾向にある。金型は一進一退が続いている。公共工事関連は、水道部品は堅調に推移しているものの、持ち直し傾向にあった橋梁・鉄骨は減少に転じている。

機械金属の生産額推移



木材業

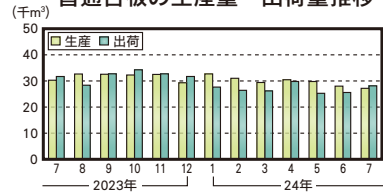
普通合板が2か月連続で前年比減少

新設住宅着工の低迷による需要不足から、全国的には木材・木製品の生産・出荷量の伸び悩みが続いているが、本県では大型製材工場稼働により、製材の供給増が続いている。

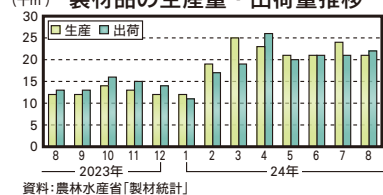
7月の普通合板は、2022年10月末に発生した地元大手の工場火災による落ち込みと、復旧にともなう反動増が一巡したことにより、生産量は前年比10.2%減、出荷量も同11.3%減と2か月連続で減少となった。

8月の製材品は、本年1月に県北の大型製材工場が稼働開始したことにともない、生産量が前年比75.0%増、出荷量も同69.2%増と、いずれも7か月連続で前年を大幅に上回った。

普通合板の生産量・出荷量推移



製材品の生産量・出荷量推移

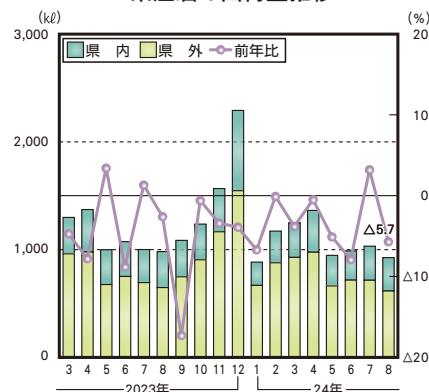


酒造業

出荷量、2か月ぶりに前年比減少

8月の清酒出荷量は、前年比5.7%減となった。物価上昇により節約志向が高まったほか、猛暑となった影響などから業務用需要が縮小し、2か月ぶりに前年を下回った。出荷先別では、県内向けは同6.9%減、県外向けも同5.0%減となり、ともに前年を下回った。県外の主な出荷先別では、北海道が同1.0%減、東北5県は同8.4%減、東京も同1.7%減となり、いずれも前年を下回った。種類別では、普通酒は同5.3%減、特定名称酒も同6.0%減となった。特定名称酒の内訳では、吟醸酒は同4.1%減、純米酒も同5.5%減となったほか、本醸造酒が同16.9%減と前年比二桁の減少率となった。

県産酒の出荷量推移



資料：秋田県酒造組合

建設業

公共工事 県、市町村等が増加し前年を上回る

8月の公共工事請負金額は、県、市町村等が増加し、前年比46.2%増と3か月ぶりに前年を上回った。4月からの年度累計実績は前年同期比13.6%増となった。

一方、当研究所調査による地元大手12社の8月の新規受注額は、前年比174.8%増の4,295百万円と2か月連続で前年を上回った。うち官公庁工事は、インフラ整備や統合中学校新築工事等の大口受注があり同189.1%増、民間工事は、金融業の本社屋新築工事の大口受注等により、同156.1%増となった。4月からの年度累計実績は前年同期比8.8%増となった。

公共工事前払金保証実績

(単位：件、百万円、%)

区分	8月	前年比	4～8月	前年同期比
件数	279	△3.8	1,379	△1.1
請負金額	18,491	46.2	115,078	13.6

資料：東日本建設業保証㈱秋田支店

地元大手企業12社受注額

(単位：百万円、%)

区分	8月	前年比	4～8月	前年同期比
官公庁	2,556	189.1	9,457	28.3
民間	1,739	156.1	3,328	△23.9
合計	4,295	174.8	12,785	8.8

(当研究所調べ、県内12社)

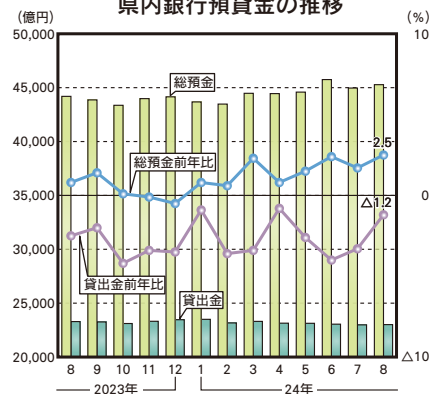
金融

貸出金の伸び率、前年割れ続く

8月末の県内銀行の預金は、前月末比313億円増加し、前年比でも2.5%の増加となった。貸出金は、前月末比24億円増加したものの、前年比では1.2%の減少となった。預金の伸び率は8か月連続で前年を上回った一方で、貸出金の伸び率は13か月連続で前年を下回った。

8月の倒産件数(負債総額1千万円以上)は3件(前年比2件減)、負債総額は2億4,500万円(同56.6%減)となった。倒産件数は、前月からは増加したものの、前年同月比では2か月連続で減少となった。負債総額も、負債額1億円以上の倒産が2件発生した前年同月を下回った。

県内銀行預貸金の推移



資料：秋田県銀行協会

住宅着工

着工戸数、3か月ぶりに前年比減少

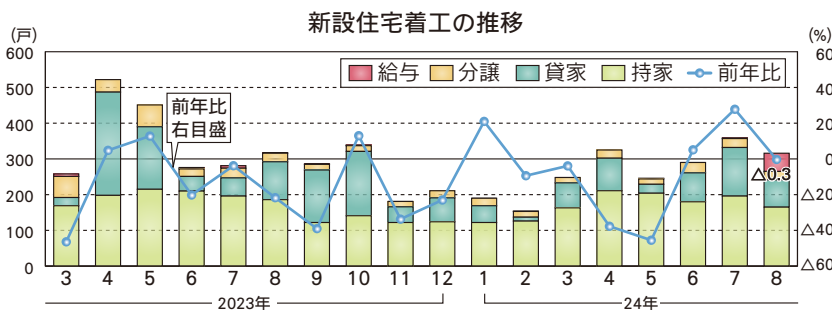
8月の県内新設住宅着工戸数は、316戸（前年比1戸減、0.3%減）であった。給与住宅の着工（小坂町50戸、秋田市1戸）があったものの、主力の持家、貸家は減少したほか、分譲住宅が横這いとなったため、3か月ぶりに前年を下回った。

利用関係別では、持家が165戸（前年比21戸減）、貸家が76戸（同30戸減）、分譲住宅が24戸（同横這い）、給与住宅が51戸

（同50戸増）となった。

持家は横這いを挟み3か月連続で前年を下回った。貸家は、北秋田地域、山本地域で減少し、3か月ぶりに前年を下回った。

地域別では、県北と県央は持家の着工が減少したほか、県北は貸家、県央は分譲住宅の着工もそれぞれ減少し、前年を下回った。県南は持家と分譲住宅の着工が増加し、前年を上回った。



資料：秋田県建築住宅課

住宅着工動向

(単位：戸、%)

区分	2024年8月		24年1~8月	
	前年比	24年1~8月	前年比	24年1~8月
県北	95	△1.0	437	△4.8
県央	164	△5.2	1,209	△15.6
県南	57	18.8	482	△10.7
合計	316	△0.3	2,128	△12.5

資料：秋田県建築住宅課

個人消費

回復の動きが一服している

7月の小売店（商業動態統計主要6業態）販売額は、前年比2.7%減となり、25か月ぶりに前年を下回った。

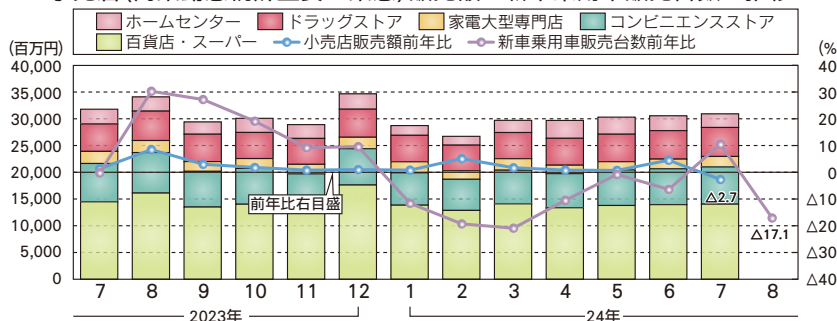
内訳をみると、ドラッグストア（前年比5.8%増）は前年を上回ったものの、家電大型専門店（同13.4%減）、ホームセンター（同7.8%減）、百貨店・スーパー（同3.1%減）、コンビニエンスストア（同2.8%減）で前年を

下回った。

8月の新車乗用車販売台数は、認証不正による一部車種の出荷停止の影響などを受け、前年比17.1%減と2か月ぶりに前年を下回った。

内訳をみると、登録車は同15.5%減と2か月ぶりに前年を下回ったほか、軽乗用車も同19.0%減と3か月ぶりに前年を下回った。

小売店（商業動態統計主要6業態）販売額・新車乗用車販売台数の推移



資料：経済産業省、秋田県自動車販売店協会

8月の新車乗用車販売台数 (単位：台、%)

区分	販売台数	前年比
新車乗用車総販売台数	2,132	△17.1
登録車	1,197	△15.5
普通車	642	△7.8
小型車	511	△22.3
輸入車	44	△29.0
軽乗用車	935	△19.0

資料：秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標(前年比) (単位：%)

区分	2024年5月	6月	7月
①消費者物価指数	3.4	2.9	2.7
②勤労者名目賃金	7.9	10.6	△2.2

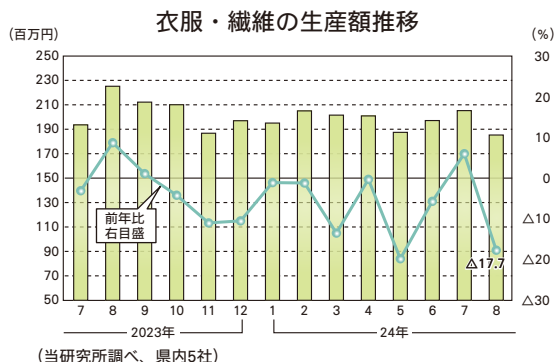
資料：①秋田県（総合指数、秋田市）
②秋田県（事業所規模5人以上）

衣服・繊維

生産額、2か月ぶりに前年比減少

8月の生産額は、前年比17.7%減となった。前月に冬物紳士服を前倒しで生産した反動などから、2か月ぶりに前年を下回った。

受注は、コートなどの重衣料が低調に推移していることなどから、6か月連続で前年を下回った。また、賃上げによる人件費上昇から収益面では厳しい状況が続いている。



雇用

弱含みの動き

8月の有効求人倍率(季調値)は、前月と同水準の1.24倍となった。常用の内訳では、一般は同0.04ポイント上昇の1.43倍、パートは同0.04ポイント上昇の0.89倍となった。

新規求人数は前年比6.2%減となり、2か月ぶりに前年を下回った。産業別にみると、製造業は同13.7%減となった。「木材・木製品」、「電気機械器具」で物価高騰の影響や景況感の先行き不安などから求人が大幅に減少したほか、全ての業種で前年を下回った。非製造業は同5.2%減となった。「宿泊、飲食サービス」、「サービス」などで増加したものの、「卸売、小売」で一部の

スーパーが求人条件の見直しのため求人の更新を一時的に見合わせたほか、「建設」で前年に遺跡発掘作業員の大口求人があった反動減がみられた。

新規求職者数は前年比7.4%減となり、2か月ぶりに前年を下回った。

事業主都合離職者数は前年比105.4%増となり、5か月連続で前年を上回った。

地域別雇用状況(パートを含む常用)をみると、新規求人数は県南で増加したものの、県北、県央で減少した。有効求人倍率は県北が最も高く1.39倍、県央が1.20倍、県南が1.11倍となった。

業種別・新規求人内訳および新規求職者数(全数)

区分	2024年7月		8月		
	前年比	前年比	前年比	前年比	
新規求人計	7,533	6.2	6,920	△6.2	
製造業	865	15.6	792	△13.7	
主要業種の内訳	食料品	100	△27.5	105	△33.5
	繊維	113	0.9	124	△5.3
	木材・木製品	37	△32.7	28	△40.4
	金属製品	70	12.9	57	△3.4
	電子部品・デバイス・電子回路	152	153.3	106	△7.8
	電気機械器具	63	△3.1	40	△27.3
	非製造業	6,668	5.1	6,128	△5.2
	建設	938	3.2	875	△15.2
	運輸、郵便	286	△8.6	305	2.7
	卸売、小売	1,115	11.5	921	△11.0
宿泊、飲食サービス	680	15.8	502	8.9	
生活関連サービス、娯楽	249	6.9	207	△18.2	
教育、学習支援	72	△15.3	166	50.9	
医療、福祉	1,402	△5.8	1,421	△5.2	
サービス	1,068	1.8	981	8.6	
新規求職者数	3,264	10.1	3,000	△7.4	
有効求職者数	15,726	3.8	14,999	1.3	

資料：秋田労働局職業安定課
(注) 臨時・季節を含む

有効求人倍率および事業主都合離職者数

区分	2024年			
	5月	6月	7月	8月
有効求人倍率	1.32	1.35	1.39	1.43
常用	1.32	1.35	1.39	1.43
パートタイム	0.82	0.80	0.85	0.89
全数(季調値)	1.30	1.24	1.24	1.24
事業主都合離職者数	257	178	225	191
前年比	70.2	2.3	54.1	105.4

8月の地域別雇用状況(パートを含む常用)

区分	新規求人数		有効求人倍率	
	前年比	前年比	前月比	前月比
県北	1,485	△18.2	1.39	△0.05
県央	3,119	△0.4	1.20	0.04
県南	1,733	1.3	1.11	0.10
合計	6,337	△4.8	1.22	0.04

(注) 臨時・季節を除く